＜問い合わせ状況　2023 年 12 月＞

院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に 5～10 件程度の問い合わせに対応しています。12 月の疑義照会は 9 件で、内容は以下の通りでした。

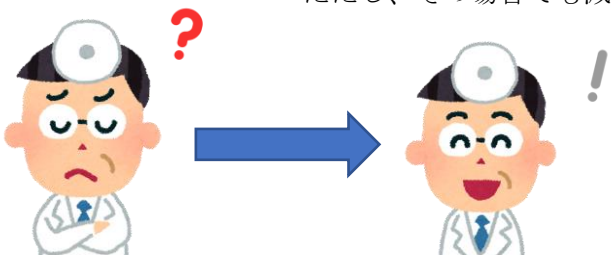
●用法用量確認（2 件）
●副作用あり、確認
●その他（6 件）
・日数調整
・外用剤処方量変更
・腎機能による薬剤確認
・流通規制に伴う日数または薬剤の変更（3 件）

※このほか、プロトコールによる変更は 4 件ありました。
（残数調整、規格錠数変更）

薬に関する問い合わせ（患者・家族・施設より）

患者さんやご家族、施設の方や外部医師からの質問にも対応しています。
12 月は質問がありませんでした。

薬に関する問い合わせ（院内より）

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。記録してある DI 室への問い合わせは、12 月は 8 件でした（病棟で直接質問されたことは未記載の可能性があります）。
◎がついたものについては回答を DI ニュース No.458 に記載しています。

●ドブトレックス®キットの外袋開封後の安定性は？ → 室温散光下で 14 日間安定（冷所や遮光下での検討無）
●ミネブロ®OD 錠は分包可能か？ → 硬度低下はあるが摘まめる程度。当院では可とする。
◎シングリックス®（帯状疱疹ワクチン）は単純疱疹も抑制できるか？
◎エルネオパ®NF 輸液にエレメンミック®注を混注可能か？
◎エムガルディ®皮下注を自己注射とできる目安は？
●エムガルディ®皮下注を 3 ヵ月毎の用法を導入する予定はあるか？ → 現時点では無い
●バンコマイシン注のシミュレーションにて一定値以上で同じ結果が出るが、なぜか？
→シミュレーションソフトの母集団データでクレアチニンクリアランスが 85 を超えると実測値より血中濃度が上昇していた（クレアチニンクリアランスが高いほど解離が大きかった）。
過量投与を避けるため、クレアチニンクリアランス 85 を目安として一定値が出るように設計してある。
●漢方製剤を多剤併用可能か？ → 山口県は 2 剤まで可。3 剤以上は必要性のコメントを記載する。
ただし、その場合でも減量査定となる。